

SKY コーナー

2022年 第52回東海安全推進大会

— 『見て聞いて触って』
危険への『気づき&再確認』 —

情報通信エンジニアリング協会 東海支部

1. はじめに

情報通信エンジニアリング協会東海支部の東海安全推進大会は、参加した方がすぐに現場で役立てていただけるよう、20年近く前の第34回から「参加者全員の危険体感実施による現場力の向上」をテーマに実施してきました。

昨年、一昨年は新型コロナウイルスの蔓延のため、オンラインによる開催とし、残念ながら東海安全推進大会の特徴である「参加者全員による危険体感」は実施できませんでした。

昨今、西日本エリアで人身事故等が少なからず発生している状況下において、「やはり東海安全推進大会では参加者全員による危険体感を実施してほしい」という多くの社員か

らの要望もありました。幸いにも新型コロナウイルス感染者数の第7波が落ち着いてきたことから、感染防止対策をしっかりと取り入れることで「参加者全員による危険体感」を含むリアル安全推進大会を実施しよう、ということになりました。

今大会は、NTT西日本東海支店様とITEA東海支部との共催で名古屋市内の「吹上ホール」にて実施し

ました(表1)。大会には、東海エリアにおけるNTT西日本グループ様の社員、ITEA東海支部会員会社の社員、展示メーカー様等スタッフを含め約500名に参加していただき、久しぶりに有意義で活気ある安全推進大会を実施することができました(写真1・2)。

以下に2022年度東海安全推進大会の概要について紹介します。

表1 第52回東海安全推進大会の概要

1. 日 時	2022年11月9日(水) 9:30~15:55
2. 場 所	吹上ホール(愛知県名古屋市)
3. 主 催	西日本電信電話(株)名古屋支店および(一社)情報通信エンジニアリング協会東海支部との共催
4. 参加者数	合計500名
5. スケジュール	
・ 9:30	開会式
・ 9:40	昨今の事故状況振り返り
・ 9:50	安全講話
・ 10:55	各体感コーナー概要説明
・ 11:25	各班に分かれ、ツアー体感、展示体感
・ 12:10	昼食および休憩
・ 12:50	各班に分かれ、ツアー体感、展示体感
・ 15:25	WEBアンケート記入、閉会式
・ 15:55	終了



写真1 吹上ホール会場入口



写真2 開会式模様



写真3 NTT西日本東海支店
安部支店長様 開会挨拶



写真4 ITEA東海支部
玉村支部長 開会挨拶

2. 今大会のポイント

今大会は何といても新型コロナウイルスの感染対策がポイントとなり、大きく次の4つの対策を実施しました。①適切なディスタンス確保のため参加者数の制限（2019年（前回のリアル大会）の750名⇒今回500名）、②危険体感コーナー数の削減（2019年8コーナー⇒今回6コーナー）、③屋内外への出入り口の解放による積極的換気、および参加者全員のマスク、手袋の常時着用、④昼食時の対面飲食の禁止および黙食の実施。

3. 開会式

開会にあたり、西日本電信電話株式会社 東海支店の安部支店長様から以下のご挨拶をいただきました（写真3）。「新型コロナウイルス感染が未だ終息していない中、皆様にはNTT関連工事および保守協業などへの多大なる協力をいただきありがとうございます。さらに今年度も台風による災害発生時には、東海エリアの復旧のみならず、広域支援にご尽力いただき重ねて御礼申し上げます。

昨年は新型コロナウイルス感染症の第5波の影響により、オンラインによるリモート開催とさせていただきました。今年は安全に対してさらに意識を高めるためには、危険体感

や事故発生メカニズムをリアルに理解できる参加型のプログラムが必要と考え、今年はリアル開催と映像の後日配信の形態とさせていただきました。

安心・安全・信頼への取組みを振り返りますと、今年度上期西日本エリアで人身事故が13件発生しています。すでに昨年度発生した人身事故の件数に迫る深刻な状況であると思っています。作業現場では、自分の身を守ることを最優先に行動するという強い決意を持ち、「事故0」に向けた取組みをお願いします。

本日の安全大会では、ここ数年で発生した重篤事故、設備事故のうち重傷化リスクや発生頻度などを踏まえ、再発防止を行う観点から6つの危険体感コンテンツを用意しました。NTT西日本統一安全スローガンにある「私たちは過去の事故を教訓に、類似事故を絶対に起こしません」を教訓に、これ以上悲しい事故を発生させないように、NTTグループ、情報通信エンジニアリング協会様、通信建設会社様が一丸となって事故防止に向け取り組んでいきましょう。」

引き続き、情報通信エンジニアリング協会 東海支部の玉村支部長から以下のような挨拶がありました（写真4）。「今回の安全大会ですが、安部支店長様からもありましたように、感染の第7波が落ち着いたであろうということで、今年こそソリア

ルでやっていこうよ、ということで開催させていただきました。巷では感染第8波の入り口に入ったとか、インフルエンザも流行するのではないかとされていますが、参加者人数をかなり絞り、感染対策を十分とったうえで今大会を開催しています。

東海の安全推進大会の特徴は、やはり、体感する、ということです。過去2年間体感ができなかったということで、多くの社員から、東海の安全推進大会は危険体感がないとね、という声がかんた多くなってきました。今回は、そのようなこともあり、再開させていただきました。

本日は、多くのメーカー様にも参加していただきました。ありがとうございます。

また、安全に関しては、従来からITEA会員会社の皆様には十分配慮していただいて、KYの確実な実施とか、少しでも迷った場合は、立ち止まる、基本動作の徹底、どうしてもこれは危険だと判断したら工事を止める、という勇気をもっていただいて、安全には十分配慮していただきたいと思います。

安全に優先する業務はありません。以前からこの大会でもお願いしていますが、「自分だけは大丈夫」だとか「いままでの作業で事故を起こしたことはない」という過信が一番危ないのです。事故を起こされた

表2 「危険一体感コーナー」一覧

- ① 所内設備作業における短絡事故体感
- ② VRと実作業を組み合わせた臨場感のある危険体感
- ③ 脚立・梯子からの転落体感
- ④ バケット車の逸走体感
- ⑤ バケットでの揺れ・衝撃体感
- ⑥ 屋根上での安全作業体感

表3 危険体感の実施模様

危険体感コーナー	① 所内設備作業における短絡事故体感		<ul style="list-style-type: none"> ○以下の3つを体感 <ul style="list-style-type: none"> ・絶縁工具等による安全確保 ・養生破壊 ・接触棒先端に銅線を付けスパーク体感
	② VRと実作業を組み合わせた臨場感のある危険体感		<ul style="list-style-type: none"> ○VRと実作業を組み合わせた臨場感ある危険体感
	③ 脚立・梯子からの転落体感		<ul style="list-style-type: none"> ○脚立傾きによる転倒体感 ○壁掛け梯子滑り事故体感
	④ バケット車の逸走体感		<ul style="list-style-type: none"> ○傾斜地での逸走仕組み体感 ○大きな力を参加者と綱引き体感
	⑤ バケットでの揺れ・衝撃体感		<ul style="list-style-type: none"> ○アウトリガー故意による押し下げ衝撃体感 ○同時にバケット部の大揺れを体感
	⑥ 屋根上での安全作業体感		<ul style="list-style-type: none"> ○安全に屋根移動する手順を体感 ○ベルブロックを使用した安全作業体感

方は、それまで事故を起こしたことがない方なのです。変な過信はぜひやめていただきたいと思います。「何よりも安全が第一」「自分の命は自分で守る」を念頭に、たとえ先輩であっても、上司であっても、危険なことをしていたら、「それはダメだ」と言う勇気をぜひ持っていただきたいと思います。」

4. 危険体感

今大会における危険体感の参加者（スタッフ除く）は、約230名で、NTTフィールドテクノ様を中心としたNTTグループ各社様およびITEA東海支部会員各社の現場作業員および現場における安全指導者層ですが、各社様の新入社員の皆様にも積極的に参加していただきました。

体感の種類は、「実演体感」および「展示体感」の2種類を設定しました。

体感参加者は、事前に約20名で構成される個々の班（合計12班）に所属していただきました。それぞれの班は、各体感コーナーを班別に決められた時間ごとにローテーションしてもらい、全体感コーナーを全員が体感できるように工夫しています。基本的に「危険体感」は各コーナー15分／班、「展示体感」は60分／班と設定しました。6つの危険体感コーナー一覧を表2に、その実施模様を表3に示します。

各「危険体感コーナー」は、NTT西日本東海エリア各支店様とITEA東海支部会員各社の専門メンバーが最近発生した事故も考慮に入れ、議論を重ね、体感コーナーを準備し、当日の運営を行いました。

5. その他の提供コンテンツ

「開会式」「閉会式」「危険体感」以外のコンテンツは以下の通りです。

□NTT西日本名古屋支店設備部長様ご講演

昨今の事故状況に関するご説明の後、①基本動作の再徹底、②交通誘導員を含む現場マネジメント再構築、③不測の環境等に遭遇した場合には立ち止まりの徹底を（2WAY確認）、の重要ポイントに関してご説明がありました（写真5）。

□安全講話

株式会社社会安全研究所技術顧問で立教大学名誉教授の芳賀繁様から「ヒューマンエラーのメカニズムと安全マネジメント」と題してご講演をいただきました（写真6）。

VUCAの時代にあって、従来の「事故の数で全体を測る」「失敗事例に着目し、その原因を探り、その原因を取り除くことで再発を防止する」というこれまでの安全（セーフティⅠ）ではなく、変化する状況の中で求められるパフォーマンスを高い水準に保つ能力が「安全」（セーフティⅡ）であるという、従来とは異なった視点での非常に興味あるご講演をいただきました。

□危険体感実施に向けた危険体感各コーナーの紹介プレゼンテーション

各危険体感コーナーを実際に企画した担当者が、過去の事故事例、対策、具体的な体感内容、体感時の注意点等の説明を行いました。実際に各危険体感をする前に、予備知識を得ておくことで体感内容の理解を深め、かつより効率的に体感していただくことができ、わかりやすかった、と好評でした（写真7）。

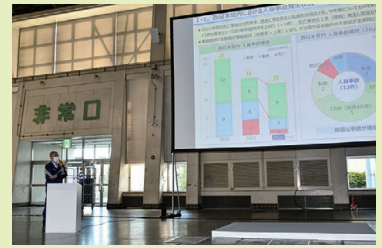


写真5 NTT西日本東海支店
鈴木設備部長様 講演



写真6 芳賀 繁様 安全講話



写真7 危険体感コーナー
事前プレゼン模様

表4 「展示体感コーナー」 出展社（敬称略）

アンリツ、カヤ産業、泉州電業、高千穂産業、横河計測、NDS、シーキューブ、日本コムシス、エクシオグループ、ミライト・ワン、アイチコーポレーション、日本コンクリート、FT岐阜設備部、タダノ、浅羽製作所、ジャパンリーコム、住友電気工業、住友電工オプティフロンティア、住電オブコム、大日コンクリート工業、東名通信工業、トーツー創研、東日本電信電話、タカコム、フジクラ、スズキ技研、イワブチ、大東電材、渡辺製作所、古河電気工業、正電成和、岡野電線、マルノ機販、NTTレンタル・エンジニアリング、テレック吉安、コーニングインターナショナル

□展示メーカー各社様等による安全ツール（器具・工具）等の紹介および通信建設会社によるVE提案等の紹介

NTTグループ3社、通信建設会社5社、他通信電線線材協会会員会社様展示メーカー様21社を含む36社のご協力により各社様のツール等に関する展示をいただきました。また、東海エリアで事業を展開する通信建設会社様5社によるVE提案等の展示、紹介もいただき、多くの参加者に興味を持っていただきました

た。参加していただいた会社様を表4に示します。

6. 終わりに

今年の大会は、11月上旬の雲一つない空の下、3年ぶりのリアル開催でもあり、気持ちよく全員が危険体感等を実施することができました。

閉会式では、ITEA東海支部の久保園副支部長から閉会の挨拶を受けた後（写真8）、NTTフィールドテ

クノ名古屋事業部の社員による指差呼称を実施し、安全推進大会を終了しました（写真9）。

スタッフ全員の努力の甲斐あって、アンケートの結果もほぼ参加者全員の方が「満足」と回答しており、大変好評を得ることができました。

最後に今大会の準備・運営にご協力賜りました関係各位の皆様感謝申し上げます。



写真8 ITEA東海支部
久保園副支部長 閉会挨拶



写真9 安全唱和

SKY コーナー

「関西ブロックSKYフォーラム2022」開催

～「きっちり工事運動」の向上を目指して～

情報通信エンジニアリング協会 関西支部

はじめに

2022年10月13日、関西支部による「関西ブロックSKYフォーラム2022」がITEA西日本事務所（大阪市）を主会場とし、リモートとリアルハイブリッドで開催されました。本フォーラムは会員各社が日常業務の中で安全性・効率性を目指し積極的に実施している「SKY運動」の成果を発表し、啓発・水平展開を図ることを目的としております。

開催にあたり、情報通信エンジニアリング協会 遠竹関西支部長（写真1）より、「本日はコロナ禍の中、3回目のリモートを組み合わせたやり方となっています。1回目がりモートとリアルを組み合わせ、昨年は完全にリモートで行いましたが、また今回はコロナ禍の1年目に戻ってのハイブリッドでの開催となっております。世の中的にはコロナも収まってきましたので、ぜひ来年はま

た完全にリアルでの実施も含め検討していきたいと思っております。

この「SKY活動」は、昭和58年、大阪市内で土砂の崩壊事故による死亡事故があり、これを契機に当時の電電公社の皆様と我々通信建設会社のメンバーが千人程度集まって小集団活動を始め発表会をしたことがきっかけとなったと聞いています。その後、昭和63年からSKY運動と銘打ってスタートして今回は34回目を迎えております。SKY活動は（S）が創造、（K）が改善、（Y）が躍進という言葉の略でございます。今年も各社並びにNTTの皆様から発表いただくこととなっております。楽しみにしております。

本日ここで発表を聞いて終わりではなく、これをぜひ皆さんの職場へ持って帰り、それを水平展開する、また現場に展開する、それが非常に大事になってくると思いますのでよろしく願いいたします。」との挨拶がありました。

続いてNTT西日本 関西支店 佐尾設備部長様（写真2：リモート接続）より、「本日は関西ブロックSKYフォーラム2022が開催されることにお喜びを申し上げますとお招きいただきまして誠にありがとうございます。また、平素より弊社の事業に多大なるご理解、ご協力を賜りまして誠にありがとうございます。

2022年度既に下期がスタートしているところではございますが、まずは昨年11月会計検査員の監査における電柱維持管理業務に対して改善指導を受けました。電気通信サービスを提供する会社として、社会不安を与えてしまい通信キャリアとしての責務と義務を再度見つめ直す大事な機会となりました。皆様には置かれましては、緊急対応として「関西管内」約4万本もの電柱の再点検、結果のDB登録を短期間で実施していただいたことに感謝いたします。ありがとうございました。引き続き、皆様とともに本件を風化させることなく安心安全なサービスを提供できるよう努めてまいります。

また、今年も台風11号から15号まで複数の台風により西日本エリアで多大な被害を受けました。特に九州ブロック沖縄、鹿児島、宮崎、長崎への支援および支援期間中の関西を守っていただいた皆様、本当にあ



写真1 ITEA 関西支部
遠竹支部長 開会挨拶

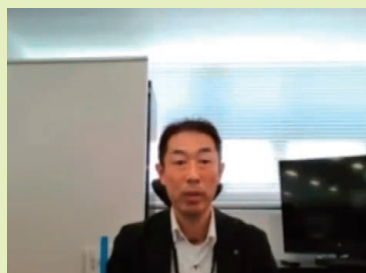


写真2 NTT西日本 関西支店
佐尾設備部長様 来賓ご挨拶

りがございました。

皆様のご協力により九州の故障件数は今週中には平時の約3倍を下回る予定となっています。

さて、弊社に置きましては7月にDエリアにおけるアクセス保守直営化を開始しました。

ここにいたるまでに各通建会社様でのOJTによる引受けありがとうございました。また、一部支障移転業務のOJTやアクセス系保守でご支援いただいております。引き続きもご支援をお願いするとともに弊社といたしましても早く自立できるように取り組んでまいりたいと思います。さらに、将来という点では2023年G7貿易大臣会合の大阪府堺市での開催決定、NTT西日本本社ビル跡地の再開発の開始、さらには夢洲での万博開催に向けた基盤設備の工事の開始、と大きなプロジェクトの具現化が始まりました。通信建設会社様並びに関係会社様と一緒に

成功させていきたいと思っておりますので、ぜひよろしくお願い致します。これらの施策を進めるにあたっては皆様の安全と健康が土台だと思っています。そこで2022年度の人身事故の状況をお話させていただきますと、西日本エリアでは14件という多くの人身事故が発生し、関西エリアでは3件発生しています。また、健康につきましては、コロナの第7波、と平均気温が過去2番目という猛暑により皆様に多大なご負担をおかけしていると思います。そのような環境下ではございますが、事故については再発防止の取組みをさらに進め、今一度皆さまと基本動作の徹底の意識を高めてまいりたいと思います。本フォーラムでは、日常業務の中で安全性、効率性を目指し積極的に実施しているSKY運動の成果を発表し啓発、水平展開を図ることを目的に開催されていると聞いております。本日は安全を始めと

した、各種改善またはDX等に関する取組みが発表されますので、ぜひともに聞かせていただき我々も持ち帰って参考とさせていただきたいと思っています。最後となりますが、SKYフォーラムを通じて情報通信エンジニアリング協会様、また、通信建設会社様のますますのご発展を祈念いたします。」とのご挨拶をいただいた後、本フォーラムが開会されました。

SKY提案表彰

表1 2021年度各社別評価件数 (単位:ポイント)

ミライト・テクノロジーズ	エクシオグループ	日本電通	ミライト	日本コムシス	合計
3.2	3.4	0	1.1	0.1	7.8

【算出方法】

- ① 2021年4月から2022年3月末までの提案件数
- ② 2022年9月末(今回)までのNTT西日本様による回答・評価ポイント

表1の評価基準に基づき、年間最も評価ポイントを獲得した会社に対して「年間提案優良会社表彰」を行いました。集計結果により、評価件数が3.4ポイント(①提案件数:3件、②回答・評価:0.4ポイント)のエクシオグループ(株)が表彰され、遠竹支部長より感謝状と記念品が授与されました(表1・写真3)。

安全運動表彰

当支部安全パトロールにおいて、安全の鉄則を遵守するとともに、安全に対する取組み活動が他の模範となり、極めて優れているとして日本コムシス(株)所属の新星コムネット(株)吉田 誠班に遠竹支部長より表彰状と記念品が授与されました(写真4)。



写真3 SKY提案表彰
エクシオグループ(株)

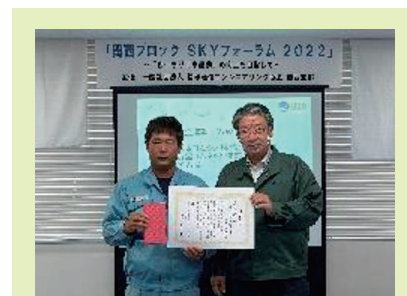


写真4 安全運動表彰
新星コムネット(株) 吉田 誠班

SKY提案発表

各社でのSKY活動として最も優秀であったものについて、1テーマ選出し発表を行うとともに、NTT西日本グループ様代表としてNTTフィールドテクノ 大阪設備部様からも発表を行っていただきました(写真5～10・表2)。

NTTフィールドテクノ 大阪設備部の発表内容は、『交通事故根絶に向けた取り組み』というテーマで発表されました。

テーマ選定は、交通事故発生件数が2020年度7件から2021年度3件へ減少しているものの根絶には至っていない現状を踏まえ選定を実施しました。

現在の取組みではSDカード点検を実施していますが、「点検稼働がかかる」「即効性に欠ける」という課題があります。そこで点検周期の見直しやドライブドクターを導入しリアルタイム音声ガイダンスやGセンサー機能による加速度計測により即時確認や適格な安全指導を実施しました。

今後の課題としては、不安全運転(行動)の可視化を重点として取り組み、ドライブドクターのデータベースでの一元管理を実施し安全意識の醸成を図って行きたいという内容でした。

その他の発表につきましても、新しい材料の提案、地域に寄り添った製品開発、安全を優先した工法・方法の提案など素晴らしい内容で施策の水平展開や今後の積極的なSKY活動への刺激にもなりました。

おわりに

発表終了後、遠竹支部長より発表各社の代表者に記念品が贈呈され



写真5 司会
日本電通(株) 小泉 佳子氏



写真6
発表模様1 日本電通(株)



写真7
発表模様2 エクシオグループ(株)



写真8
発表模様3 (株)ミライト・ワン



写真9
発表模様4 日本コムシス(株)



写真10
発表模様5 (株)NTTフィールドテクノ

表2 発表テーマ一覧

発表テーマ	発表会社名	発表者
1. 『事故からの再出発』	日本電通株式会社	古田 泰洋
2. 『新しい土留材 (Jスマートウォール) を使用した立抗掘削の作業性向上について』	エクシオグループ株式会社	松本 貴文
3. 『交流切替用BOXの作成～より安全な作業の提案をお客様に～』	株式会社ミライト・ワン	中北 祥記
4. 『公衆電話BOX工事におけるカイゼン～Hi-線sカバーの開発～』	日本コムシス株式会社	阪本 裕規
5. 『交通事故根絶に向けた取り組み』	株式会社NTTフィールドテクノ 大阪設備部	戸川 悠輔

(写真11)、エクシオグループ(株) 松本 貴文リーダーの発声で関西支部の安全スローガン「まず安全 工夫を活かそう 知恵と技 ヨシ!!!」

を全員で唱和(写真12)した後、主催者を代表してITEA 山下常務より「本日は関西ブロックSKYフォーラム2022に多くの方々にご

参加いただきましてありがとうございました。NTT西日本グループの皆様、関西エリアの通信建設会社の皆様、そして運営するスタッフの皆様のご協力によって無事開催することができました。改めて皆様に厚く御礼申し上げます。

この1年間も多くのSKY提案をいただきました。ありがとうございます。

本日、各社の代表者の皆様から発表をいただきましたが、その中で過去の重大事故の教訓から二度と仲間が同じような事故を発生させないために取組みをしていただいた事例がありました。

昨年度西日本エリアでは人身事故の総数は減少したものの4件の死亡事故を発生させてしまうという過去に類をみない危機的な状況でありました。全国で人身事故根絶に向けて、今取り組んでいる最中ではありますが、今年度に入り既に昨年度と同規模の14件の人身事故、そしてその中には静岡において交通誘導員の方が尊い命を失うこととなる死亡事故が既に発生しております。

今年度から現場の見守りの一環でネットワークカメラの導入が始まっています。現場のみならずデスクからの声かけや安全作業を最優先する

行動が定着化していくことを期待しています。

他の発表では施工性や作業品質を向上させるための新しい材料の提案、地域に寄り添った製品開発、安全を優先した工法・作業方法の提案、こういった数多くのSKY活動らしい水平展開可能なテーマがありました。そしてNTTフィールドテクノロジーからは交通事故防止という現場が抱えている課題に対して着目した地に足がついた取組みをご紹介いただきました。

また、本日、この1年間の最優秀安全作業班として受賞されました新星コムネット社の吉田班の皆様おめでとうございます。安全は日々の積み重ねが大事だと感じています。どこに危険が潜んでいるのか、現場では場所によってその環境によって全く異なるので定型のKY、指差し呼称では意味がありません。

皆さんの目線で危険を予知して命を守る行動を最優先していただきましたと思います。

結びになりますが、1986年から30年以上にわたって続けてきているこのSKY活動がこのように現場発で共に働く仲間のための成果に結びつき、昨年もこの場で申しましたけ

れども、既存業務に磨きをかけ、持続可能な運営体制の確立を目指し通信建設業界全体として若者が「働きたい、働きたい」と思うような業務に仕上げ、業界全体の魅力度向上につなげていければと思います。

以上をもちまして簡単ではございますが、閉会の挨拶とさせていただきます。本日はありがとうございました。」との挨拶があり閉会しました（写真13）。

今回の大会は、リモート接続により約250カ所から参加いただきましたが、無事終了することができました（表3）。

視聴者アンケートでは、今回のハイブリッド開催およびポータルサイトによる開催後1カ月の視聴に対し「若干聞き取りにくい部分があったものの概ね良好であった。」「自分のタイミングで閲覧でき効率的であった」との多くのコメントをいただきました。また「コロナ関係なくリモート（オンライン）環境は効率性、柔軟性の面でも今後も継続すべきよい実施（開催）方法だと思えます。」とのご意見もいただいておりますので、今後の新たなスタイル開催に向けての検討をしていくことといたします。

大変お忙しい中、本大会にご臨席いただきましたご来賓・NTTグループの皆様にご感謝申し上げますとともに、大会の諸準備、運営にご協力いただきました関係各位に対して心から厚く御礼申し上げます。

表3 大会概要

大会日時	2022年10月13日9:30~11:30	
開催場所	ITEA西日本事務所（大阪市）＜各拠点リモート接続＞	
参加者 （リモート接続）	・NTTグループ各社様 ・通建各社（グループ会社含む）	約250カ所

